

巻 頭 言

公立大学協会図書館協議会は平成20年で53年目を迎えますが、大学図書館を取り巻く環境は一層厳しさを増すとともに、以下のような今日的課題にどのように対応するかが問われています。

第一に、図書館充実の課題です。自治体の財政逼迫から、公立大学に対する財政的支援が弱まりつつありますし、予算も大学間競争の優位性確保のための組み立てへ特化しつつあります。こうした中で、図書館業務のアウトソーシングが進み、経常的経費は縮小化の対象となりやすい状況が続いています。

第二に、大学及び地域のための図書館機能の課題です。大学図書館は、大学の教育・研究活動を支える基盤的施設です。また、学術情報の社会への開放等、公立大学図書館としての社会的役割と期待はますます大きくなっています。

第三に、情報化の課題です。電子ジャーナル等を導入するとともに、デジタル学術情報の流通形態、管理方法を改善して、十分なものにしていく必要があります。また、インターネットの急速な普及と相まって学生の図書館利用が変化しつつあり、積極的に対応しなければならないと思います。

こうした状況の中で、国立私立の大学図書館とならんで、公立大学図書館の機能は質的転換期を迎えているといっても過言ではありません。

公立大学協会図書館協議会としては、相互協力委員会において電子ジャーナル・コンソーシアムを構築し、加盟各館の拡大と出版社・学協会との契約交渉を引き続きおこなっています。さらに国公立大学図書館協力委員会に参加し、著作権やコンソーシアム・研修会・シンポジウム等、国公立の壁を越えた大学間の連携・協力のもとに協議を続け、大学図書館の学術的・社会的機能向上のための努力を着実に積み重ねております。

更に、公立大学図書館共通の課題に対し、公立大学協会図書館協議会を中心として一致協力して解決に当たる一方で、各大学における個別の課題についても大学間相互に情報提供・交換を行って解決を目指し、各大学図書館の一層の充実を図っていきたいと思います。

最後に、各大学図書館の館長・職員をはじめ、図書館運営に当たっておられる方々の日頃のご努力に対して敬意を表するとともに、大学図書館として独自の活動を積み重ね、大学内はもとより、地域社会への貢献に一層の努力をお願い申し上げる次第であります。同時に、この一年間の協議会運営へのご理解とご協力に対し深く感謝申し上げます。

平成20年3月

公立大学協会図書館協議会会長館

北九州市立大学学術情報総合センター長

棚 次 奎 介